

編集後記

本号では、昨年12月5、6日の2日間にわたり名古屋工業大学で開催された第6回横幹連合コンファレンスにおける発表より、「発表論文セレクション」と称して特集を組みました。横幹連合コンファレンスでは、優れた発表に対して木村賞を差し上げて表彰しています。ただ、この選考の過程で最終的には選にはもれてしまうものの「このまま発表しっぱなしにするのは、なんとももったいない」と選考委員会で話題になるものが、毎回、多くあります。そこで、今回は、初の試みですが、上記の木村賞選考の過程で候補に上がった発表に対して、これを原著論文として充実させ、「横幹」へ投稿されることを勧誘いたしました。これに応じて論文としてまとめて頂き、通常の原著論文と同じ査読を経て採録となったものが、今回掲載の「第6回横幹連合コンファレンス発表論文セレクション」論文です。いずれも、コンファレンスでの発表をさらに掘り下げ、内容の濃い論文に生まれ変わっています。特集号としてまとめることができ、著者の方々、査読者の方々に、お礼を申し上げます。

会誌「横幹」のサーベイ論文、原著論文は、「横断的視点に立った考察・論理展開」と「知の統合に向けた概念・方法論の提案」という2点が満たされているかを評価の基準とすると、投稿規定に明記しています。原著論文を投稿いただく方もですが、査読者にとっても、この2点の基準は難解で頭を痛める場所です。しかし、では横幹連合の会誌としての「横幹」のアイデンティティーはとの問いには、このような形で答えていかななくてはなりません。この基準をもう少しかみ砕いた具体的で分かりやすいものとしていくべく、会誌編集委員会で議論を進めています。ただ、この答えは、そもそも「横幹理念とは何か」という横幹連合の根幹の問題に行き着きます。一方で、投稿論文、掲載論文の数が増えてくれば、自ずとある基準が見えてくるようにも思えます。まずは、読者にとって投稿に値する魅力ある会誌にしていくことが第一歩であると思っています。

今回の特集の試みが、このような意味でも、会誌にとって新しい一歩になればと思っています。

会誌編集委員長 出口光一郎

【特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）】

□ 2016 年度役員

会 長	鈴木久敏（情報・システム研究機構）	
副会長	遠藤 薫（学習院大学）	船橋誠壽（北陸先端科学技術大学院大学）
理 事	大場允晶（日本大学）	木全 晃（香川大学）
	佐藤 誠（東京工業大学）	杉本謙二（奈良先端科学技術大学院大学）
	西村秀和（慶應義塾大学）	藤井 享（(株)日立製作所）
	松岡由幸（慶應義塾大学）	三藤利雄（立命館大学）
	皆川健多郎（大阪工業大学）	鎌倉稔成（中央大学）
	島田政信（東京電機大学）	末岡 徹（(株)地圏環境テクノロジー）
	田中 覚（立命館大学）	椿美智子（電気通信大学）
	坪井康次（東邦大学）	出口光一郎（東北大学）
	中西寛子（成蹊大学）	保坂 寛（東京大学）
	本多 敏（慶應義塾大学）	六川修一（東京大学）
監 事	木村忠正（電気通信大学）	庄司裕子（中央大学）

□ 2016 年度会誌編集委員会

委員長	出口光一郎（東北大学）	
副委員長	椿美智子（電気通信大学）	
委 員	青柳秀紀（筑波大学）	玉置 久（神戸大学）
	水野 毅（埼玉大学）	木全 晃（香川大学）
	杉本謙二（奈良先端科学技術大学院大学）	藤井 享（(株)日立製作所）
	穴太克則（芝浦工業大学）	加藤健郎（慶應義塾大学）
	金子勝一（山梨学院大学）	松岡 猛（宇都宮大学）
	渚 勝（千葉大学）	三宅美博（東京工業大学）

■横幹技術協議会の主な活動実績 『横幹技術フォーラム』

横幹連合との共催で定期的に行っている「横幹技術フォーラム」では、複合的視点を必要とする企業課題への技術情報を提供しております。

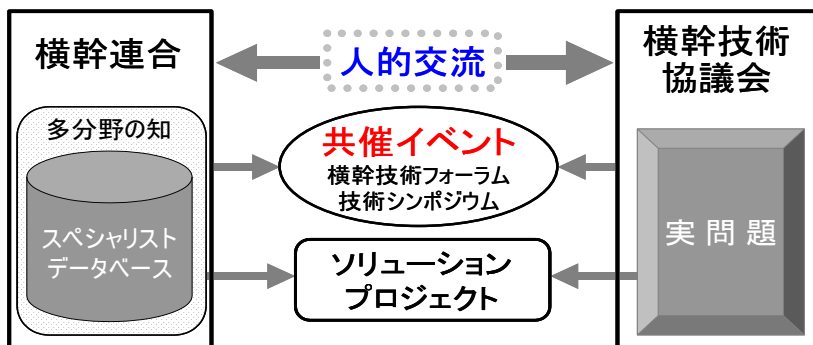
＜過去のフォーラム実績＞

- 第23回 社会・経済・金融を理解する数理工学の展開
- 第24回 21世紀のモノづくり革新をめざして
- 第25回 3Dとバーチャルリアリティの最近の展開
- 第26回 シンポジウム「知の統合」に向けて～社会的役割と具体的事例～
- 第27回 将来社会創造アプローチの展開(1)～未来構想立案の実践と手法～
- 第28回 将来社会創造アプローチの展開(2)～市民との対話による構想立案～
- 第29回 知の新しい活用法を求めて～実践と理論の連携～
- 第30回 知の統合による経営の高度化に向かって～未来経営の構想と技術課題
- 第31回 企業における事業継続計画(BCP)の必要性
- 第32回 情報共有による社会インフラの強靱化～システム技術の新たな挑戦課題～
- 第33回 強いぞ！日本
～社会情報学の視点から東日本大震災からの復旧・復興を考える～
- 第34回 東日本大震災からの復興支援現場における支援活動
～次世代に向けた日本の街づくりとして我々は何ができるのか～
- 第35回 エネルギーマネジメントの新しい局面～社会システムの構築段階を迎えて～
- 第36回 アート・デザイン・テクノロジー～近くて遠いその関係～
- 第37回 「未来学」の過去・現在・未来
- 第38回 サービス学の成立 ～サービス科学・サービス工学の発展を受けて～
- 第39回 社会システム論で社会を読み解く
- 第40回 社会デザインのためのエージェントベースシミュレーション
- 第41回 社会的課題解決のためのイノベーション～社会システムとしての街づくり～
- 第42回 数学と産業の協働、データサイエンティストの育成
～イノベーションの創出と促進に向けた先進的取り組み～
- 第43回 経営高度化としての統合リスクマネジメント経営の考察
- 第44回 ロボット活用社会の新潮流
- 第45回 システムデザイン力を展望する
- 第46回 第6次産業への取り組み～複数システムの連携による価値構築～
- 第47回 4次産業革命に向けたサービス科学の役割とビジネス応用に向けた課題

※過去のフォーラムプログラムはHP(<http://www.trasti.jp/about.html#forum>)をご覧ください。

■企業の課題解決支援（プロジェクト活動）

企業が抱える実問題に対し、他分野の専門家が共同してプロジェクトを組みソリューションを追求するもので、さまざまな要素が絡み合う複雑な課題へアプローチする、新たな産学連携の仕組みとして注目されています。横幹技術協議会では、中核会員企業に初期のフィジビリティスタディ段階のサービスを提供しています。



統合知による産業力強化を推進



横断型基幹科学技術推進協議会

会長 桑原 洋

日立マクセル(株)名誉相談役
元 内閣府総合科学技術会議協議員

横断型基幹科学技術推進協議会（略称：横幹技術協議会）は、企業を会員として横幹科学技術の推進活動を行っています。

「学」を中心とする横幹連合と、「産」を主体とする横幹技術協議会は互いに緊密に連携しながら、横幹科学技術を推進し、産業活動に生かすためのさまざまな活動を行っています。横幹連合と横幹技術協議会は、車の両輪として、横幹科学技術の学としての深化と社会への活用に取り組んでいます。

（設立：2004年5月）

■参加会員（2016年4月現在）

- 【中核会員】
株式会社 日立製作所
- 【一般会員】
鹿島建設 株式会社
三菱重工業 株式会社

横断型基幹科学技術推進協議会

Transdisciplinary Science and Technology Initiative

TEL&FAX:03-3814-4130 URL: <http://www.trasti.jp/>